

かんまき 社協だより

第70号 2020.10

共同募金運動が始まります

10月1日より「じぶんの町をよくする仕組み」を合言葉に「赤い羽根共同募金運動」が全国一斉に始まります。この募金は、地域福祉の推進を目的として、地域の福祉課題を解決するために住民自らが取り組む活動への支援や災害支援に役立てられます。

みなさまの暖かいご協力をお願いします。
なお、今年度は新型コロナウイルスによる感染症予防の観点から街頭募金を実施するにあたっては奈良県共同募金会作成の「募金活動実施にあたっての衛生配慮に係るガイドライン」に則り先の点に配慮して活動します、

- ① 健康管理の徹底（募金活動前の検温等）
 - ② 手洗い・手指消毒の励行
 - ③ 募金活動中のマスクの着用
 - ④ 対人距離の確保
 - ⑤ 衛生管理（募金箱等の資材は活動前、活動中にも適宜アルコール消毒を実施します。）
- また、寄付金の受け渡しは寄付者が直接募金箱に投入していただき、呼びかけ者との手渡しはしないようにします。

街頭募金の日程は左記の通りです。

10月1日

10時30分～12時

ラスパ西大和店・スーパーおくやま上牧店



身障協交流会

9月14日に身体障害者協議会が会員交流会を実施しました。今年度は新型コロナウイルスによる感染症予防の観点から総会や春の歩こう会など行事が軒並み中止になってまいりましたがこのままでは会員の交流が行えないと、感染症予防に配慮しながら屋内でのレクリエーションとして交流会を実施しました。

会長他〇名が参加し、軽スポーツやトランプなどを楽しみました。

身体障害者協議会では新規会員を募集しています。詳しくは社会福祉協議会までお問い合わせ下さい。



寄附のご報告

左記の団体よりご寄附をいただきましたのでご報告いたします。ご寄附をいただきありがとうございます（敬称略、順不同）

今回は社協だより発行間隔の都合で昨年12月から本年8月末までの期間でご寄附いただいた方のご報告となります。報告が遅くなりましたことをご詫言いたします。

いただいた寄附金は地域福祉活動推進のために活用させていただきます。

令和元年度分（令和元年12月～2年3月）		
氏名（団体）	種別	金額（円）
友が丘友愛会	一元募金	3,826
松寿クラブ		11,296
ひまわり会		3,500
千寿会		2,320
癒やしのヨガ	寄附	5,000
匿名		50,000
匿名		1,015,144

令和2年度分（4月～8月）		
氏名（団体）	種別	金額（円）
明朗会	一元募金	939
匿名	寄附	50,000
匿名		10,000
匿名		50,000
匿名		100,000



みんな元気に再会！

（おひさま広場・サロンぼけっと）

6月からおひさま広場とサロンぼけっとを再開しています。お休みの期間中会えなかったの、参加者だけでなくスタッフも自然と笑みがこぼれておしゃべりやレクリエーションを楽しんでいます。

サロンぼけっとでは再開にあたって、皆さんが安心して参加していただくための対策として20名までの入場制限と12時から13時までのお昼の時間を消毒と換気の時間としてお休みさせてもらっています。



発行：社会福祉法人 上牧町社会福祉協議会
住所：上牧町上牧3245-1
TEL：0745-76-6098
FAX：0745-79-0895
URL：http://kamishakyo.web.fc2.com/

目次

コロナでもつながり続ける ～小地域ネットワークの活動から～	・・・2
身障協 交流会	・・・4
お知らせ（共同募金、ご寄附等）	・・・4

「コロナでもつながり続ける」
小地域ネットワーク活動の現場から

今年度は、当初から新型コロナウイルスの影響で、各小地域ネットワーク（以下、「小ネット」）で例年行われている活動が軒並み中止を余儀なくされました。

新型コロナウイルス感染症を予防するために3密を避けることよく言われますが、集まること・つながることを得意とされている小ネットの世話人さんにとって、3密を避けながら活動するというのは最も難しい課題でした。特に沢山の地域の人達が一度に集まるようなイベントは、どこまで対策すれば開催できるのか答えが分からず、中止せざるを得ない状況です。



今回はこのような状況の中、それでも自分や地域のために何かできることはないのかと模索し、取り組まれた小ネットの活動について紹介していきます。

（マスクづくり いざなぎの里・うきうきネット）
使い捨てマスクが品薄となり、なかなか入手が困難だった頃、困った地域の方のために、小ネットの世話人がそれぞれ端布を持参し合い、世話人さん同士で手作りマスクを作成。出来上がったマスクを地域の高齢者へ提供する活動を始められました。



隣同士の間隔を開けるなど、少し距離は離れますが参加者も以前と変わらず楽しく過しています。

（おひとりとさまサロン わくわく祭りの会）

孤食を防ぎ、自宅から出る機会を設けるために行われている、わくわく祭りの会の「お一人様昼食会」は、コロナ禍においても人数やソーシャルディスタンスを保ち、消毒や換気を行いながら、小人数で集まって昼食会をされています。

（いざなぎの里サロン いざなぎの里）

いざなぎの里では、毎月20名以上が集まり、円になって脳トレゲームをされています。これまでと同じやり方では密になるので、座席やゲームの種類を工夫してサロンを継続されています。



参加者からは、「やっぱり中止になったら困るわ」と集まりを求めておられる声もいただいています。

した。サロン活動が開催できない中だったので、世話人さんにとっても地域の方と顔を合わせて話ができるいい機会となりました。

（地域の子どもたちへ 滝川台ネットワーク）

滝川台ネットワークでは、小中学校が休校になり子ども達が自宅で過ごす時間が増えることで、子どもたちがストレスを感じているのではないかと、家族の困りごとが増えているのではないかと問題意識から、小ネットの世話人が子どもがいる世帯を一件ずつ周り折り紙とアンケートはがきを配布しました。アンケートの中には、子どもの勉強の遅れや家族の仕事への不安などとともに折り紙へのお礼やこれまでのネットワークの活動への感謝の言葉が綴られており、今後のネットワークの活動の参考としていく予定です。



（休止中のサロンの参加者に 虹の会）
虹の会では毎月20人以上が参加するサロンを開催していました。参加者に高齢者が多く、感染リスクを考えると今までも同じようにサロンを開催することは出来ないかと判断しました。でも、「このままでは寂しい!」「何かしよう!」と世話人さん達が意見を出し合い、大人の塗り絵と色鉛筆を、サロンの参加者に一件ずつ配り歩き、安否確認をされました。

サロンの再開は、塗り絵の成果の展示会から始め

（防護服づくり さくらんぼ）

さくらんぼでは、緊急事態宣言が発令された頃、医療現場の逼迫状況が報道される中で医療従事者、介護従事者が休む間もなくコロナと戦っている様子を見て、活動が中止している今だからこそ出来る事を考えました。その結果、防護服支援プロジェクト「ポリ袋で防護服みんなで作って医療現場に届けよう!」に参加することになりました。



小ネットの世話人の数人に声をかけ、現在も協力し合いながら1回100着単位で防護服を作成してプロジェクトの主催者を通じて医療機関に送られています。

（防護服づくりのひろがり）

そしていま、さくらんぼから始まった防護服プロジェクトへの参加が町内各地区へと広がり始めています。きっかけは小ネット連絡会での活動報告でした。さくらんぼの活動を知った他の小ネットから参加してみようかなとの声があがり、世話人さん同士で声をかけ合って、徐々に参加の輪が広がっています。

コロナが世間を騒がせる前までは、小ネットの活

る予定です。

（小物づくり グリーンネット）

イベント型の行事を主に実施していたグリーンネットでは、イベント再開の見通しが立たず、このまま何もしないままではいけないと、地域の女性達が少人数で集まり、話をしながらテイスシユケースを作るなど、小規模な活動から再開を模索されています。



（子どもサロン しもまきネット）
コロナが影響して始まった活動だけではなく、このまま自粛ばかりでは自宅にこもってしまつと、感染予防対策をしながら、サロン活動を継続されているところもあります。

しもまきネットでは、毎月子どもやお母さん、世代を超えて数人集まり、クラフトなどをしながらお茶飲みサロンをされています。コロナ禍においても、参加者同士で「次、どうする?」と相談し合いながら、感染対策をして活動を継続され



動も、地域ごとに活動を行い、毎月1回の代表者会議で代表者同士の近況報告などをしていました。しかし、今回のコロナが影響して、活動の妨げを試し錯誤されている中、防護服プロジェクトへの参加は、普段顔を合わさない他の小ネットの世話人さん同士が作成方法の伝授を通して交流する機会となりました。

作成方法の伝授する際には、会場のあちこちで「楽しい」との声を耳にしました。各地域では感染症予防に留意しながら、今までも同じ活動はできなくとも、人と人とのつながりが一番大切とのスタンスを崩さずに様々な工夫をしながら新たな活動を模索中です。

今回、

各地区の活動をみていく中で、世話人さんの創意工夫と交流が大きなエネルギーになる実感しました。

